



カスタムジャパン

逸品検索

IPPIN
KENSAKU
2023.12
WINTER



魅力的な“逸品”や新しいニュースを続々掲載！

秀逸！
掘り出しブランド



SHAD



Pro Select
Battery

プロセレクトバッテリー プレミアムシリーズ
ナノ・ジェルバッテリー



バイクSHOPの現場から生まれた

ProSelect ナノ・ジェルバッテリー

バイクに欠かせない消耗パーツといえば、なんといってもバッテリー。特に最新モデルではエンジン始動時にセルモーターを回すだけでなく、ECUを起動させたりFの燃料ポンプを作動させたりと多くの電力が必要になっている。さらに盗難防止機能付きのモデルでは停車時も常時電力を消費。バッテリーに対する負担は増えている。一方で、社会人の多い現代のライダーは昔ほど常時バイクに乗っているわけにもいかず、年間走行距離は減少。走行中エンジンからの充電では不十分で、バッテリーをダメにしてしまったという経験を持つライダーも多いはずだ。ただ、いざバッテリーを新品に交換しようとしても、有名メーカーの製品が安心できるのは分かっているけれどちょっと値段が……とか、逆に安い海外メーカー品は長持ちするか不安……といった新たな悩みが。数多くのバイクショップと補修部品の業販取引を行ってきたカスタムジャパンには、現場からこうしたユーザーの悩みが数多く寄せられていた。

従来MFタイプと換えるだけで
高性能をリーズナブルにゲット

「高性能で安心して使えるバッテリーをリーズナブルな価格で」というユーザーのニーズをカスタムジャパンが実現してくれた！

※参考希望小売価格 5,588円～2万3,980円

問い合わせ カスタムジャパン <https://www.proselect.jp>

●文：宮田 健一 ●写真：松井 慎

こんな人にオススメ！

- 始動性を重視する方で冬のツーリングを予定されている方
- 排気量が多い使用頻度の少ないバイクを所有
- 手頃な価格で確かな性能とアフターフォローを

そこでバッテリーメーカーとも取引しているカスタムジャパンは、そのノウハウを元に自社ブランド「プロセレクト」としてリリースを決意。日本人技術者の監修のもとしっかりと品質管理を行う海外工場によって製造コストを下げ、流通もこれまで培ってきたルートに乗せることで無駄なコストを削減。有名メーカーに劣らぬ高性能バッテリーをリーズナブルな価格でユーザーに届けることに成功した。そして原付スクーターから大型バイクまで数多くの車種に適合するサイズ、それに昔ながらの開放型からMFタイプ、そして最新のリチウムイオンまでラインナップするまでになった。その中でも従来MFからの交換に最もお勧めとなるのがプロセレクトバッテリー プレミアムシリーズ ナノ・ジェルとなる。

一般的なMFバッテリーは密封容器の中の電解液が文字通り液状のままだが、ナノ・ジェルバッテリーではこれをジェル状にし、さらにAGMと呼ばれるガラスマットに染み込ませることで内部を安定化。これによって従来MFタイプより飛躍的に電気の保持性能がアップ。さらに耐震性能や低温下性能なども向上するようになった。その長持ちぶりは安心の2年保証を付けた自信作。ヘビーユーザーからライトユーザーまで頼れる高性能バッテリーだ。

プロセレクトバッテリーの最新情報は右のQRコードからアクセス！ <https://www.proselect.jp>



※メーカー希望小売価格は「税込金額（税抜金額）」で表記しています。

店舗用

2023
4

2023
5

2023
6

2023
7

2023
8

2023
9

2023
10

2023
11

2023
12

2024
1

2024
2

2024
3



日本初公開! ツーリングやバイクキャンプに 最適な新バッグシリーズに注目!



カスタムジャパンが取り扱う「SHAD (シャッド)」は、トップケースをはじめとした製品で知られるスペイン・バルセロナ発のバイク用品ブランドだ。デザイン・性能両面で優れたその製品は、ヨーロッパでトップケースのスタンダードとして認められている。

今回のSHADブースでは、日本初公開の新製品が展示され、多くの来場者から注目を集めていた。その中でも、ロングツーリングに最適なシートバッグ「TR50」、クリックシステムを採用し、簡単に脱着できるタンクバッグ「TR15CL」と「E09CL」、「E03CL」が大きな話題を呼んでいた。これらのアイテムは、SHADならではの高品質で機能性に優れており、バイクライフをさらに充実させてくれるだろう。

実際、来場者の多くが興味を引いたようでその使い勝手をチェックしていた。また、SHAD本社(バルセロナ)のシコラ社長自身も積極的に商品デモンストレーションを行うなど、やる気満々の様子を見せていた。



E03CL/E09CL タンクバッグ



ミニサイズながら万全の機能性とセキュリティ性能を兼備

タンクとバッグとの接続を容易にする、Click (クリック) システムを搭載したタンクバッグ。ボタンのワンプッシュで脱着が可能。タンクへ接続したままキーロックおよびバッグの盗難防止ができる優れたセキュリティ性能を備えている。硬質なABS樹脂を使用し、型崩れの無いセミリジッド構造やファスナー付きのメッシュポケットをバッグ内部に搭載する。



品 番: 27819722
サイズ: E09CL 9L
¥20,900
(¥19,000)

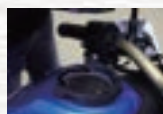
品 番: 27819708
サイズ: E03CL 3L
¥15,400
(¥14,000)

TR15CL タンクバッグ



Clickシステムの採用で確実な固定、簡単脱着が特長

TR15CLは、タンクとバッグとのコネクションの新常識、Click (クリック) システムを搭載したタンクバッグ。TERRAシリーズのバッグ製品と共通してPVCコーティングのタフな厚手生地を使用しているほか、タンクへ接続したままキーロックができ盗難を防止する。



品 番: 27819753
サイズ: TR15CL 13L
¥37,400 (¥34,000)

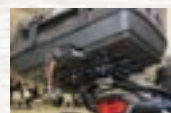
TR50 シートバッグ



ソフトバッグながらロック機構搭載フルフェイス2個まで収納可能!



フィッティングキットに装着するタイプのツーリングバッグ。ロック機能を搭載しバッグの盗難を防止する。PVCコーティングのタフな生地を使用、摩耗や汚れに強く紫外線による劣化にもタフな仕様となっている。



品 番: 27819630
サイズ: TR50 40L
¥39,600 (¥36,000)



「ティムソンタイヤ」は、世界40カ国以上で1.5億本以上の販売実績を持つバイクタイヤの人気ブランドだ。同社は、日本のJIS規格、ISO 9001、ISO 14001を取得した認証工場で製造され、欧米の厳しい規格にも対応している。また、バイクメーカー純正品に準拠した工場で製造されているため、高い品質を実現している。

そんなティムソンタイヤが、最新モデル「TS689 GECKO2(ゲッコツー)」を含むプレミアムタイヤの「ストリートハイグリップシリーズ」を東京モーターサイクルショーで展示。ブースには、TS880やティムソン本国の新開発パターンなどの注目タイヤが所狭しと並べられ、訪れた人々を魅了している。

バイク本来のポテンシャルを引き出す 新作ハイグリップタイヤが登場



グリップ、耐久性ともに高められた ストリートハイグリップシリーズ

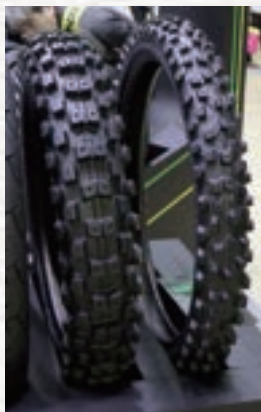
ストリートハイグリップシリーズは、ティムソンタイヤのラインナップの中でもプレミアムなポジションに位置するタイヤ。優れた高粘性コンパウンドと独自の補強を施した構造により、高いレベルの耐久性とグリップ性能を実現。究極の安心・安全を提供するタイヤとなっている。スポーツ車用をはじめ、スクーター用、アドベンチャーモデル用にいたるまで、幅広いラインナップを網羅している。



全7サイズ

TS835

オフロード競技専用モデルは
グリップ性能と耐久性を両立



TS835はオフロード競技用のモデル。レース用のトラフィックパリティとグリップ性をさらに向上。独自のデザインのパターンが点状に配置されているのが特徴で、路面からの応力を分散、均一化し衝撃による損傷も回避する。

品番:27293157
サイズ:80/100-21
51P TT フロント

¥11,220
(¥10,200)

品番:27293188
サイズ:110/100-18
64P TT リア

¥17,930
(¥16,300)



全8サイズ

TS880

TS880は、高いオンロード性能にアドベンチャー要素を取り入れた、ミドルスクーター用タイヤ。ストリートハイグリップシリーズに共通するオンロードでの安定した高いコントロール性と耐久性はもちろん、不整地にも対応。ウェット路面でもグリップするコンパウンドを採用する。



高次元のオン性能にオフテイス
トをプラスしたハイグリップ×クロ
スオーバーモデル

品番:27835302
サイズ:110/80-14 53P
TL フロント

¥17,380
(¥15,800)

品番:27835319
サイズ:130/70-13
57S TL リア

¥18,260
(¥16,600)



TS689 GECKO2 (ゲッコツー)



よりスポーツモデルにふさわしい
トレッドパターンデザインを採用

TS689 GECKO2は、ストリートハイグリップシリーズのフラグシップ・TS689のタイヤパターンにスポーツテストをさらに盛り込んだモデル。高いグリップ力とハンドリング性能を発揮しつつ、ロングライフも実現している。



品番:27806913
サイズ:110/70-17
54H TL フロント

¥28,710
(¥26,100)

品番:27806920
サイズ:140/70-17
66H TL リア

¥44,550
(¥40,500)

こ
こ
に
注
目
!!

12/14/17インチの人気車種用を同条件試乗
ツーリング&通勤

TIRE



YZF-R3 ABS

↑ロングライフとグリップ力をバランスさせたスポーツバイアスタイヤ。250 スポーツで多くの純正採用実績を持つRX-01の後継品だ。

**IRC
RX-02**
F 110/70-17
R 140/70-17



↑↓特殊構造のサイドウォールとカーカスを採用し、バイアスとは思えない剛性を実現。天然ゴムの採用によって弾性にも優れる。

**TIMSUN
TS689**
F 110/70-17
R 140/70-17

乗り心地



↑評価点数は両モデルとも同じ「4」だが、低中速域でしなやかなRX-02に対し、TS689は中高速域になると路面からの凹凸をしっとりと吸収。得意とするスピードレンジが異なっている。

制動距離測定結果

	IRC RX-02	TIMSUN TS689
ドライ制動 (60km/h)	16.3m	17.1m
	14.1m	14.6m
	14.8m	15.1m
ウェット制動 (40km/h)	6.5m	7.3m
	5.8m	4.6m
	5.2m	4.6m

↑ドライは60km/h、ウェットは40km/hから制動。こちらも得意なシチュエーションが異なり、ドライではRX-02が短い距離で止まれた一方、ウェットではTS689のグリップが大きく上回った。

ティムソンは、ラインナップするオンロードタイヤをハイグリップ/スポーツ/ストリート/ツーリング/ビジネスにカテゴライズしている。YZF-R3に装着されたこのTS689はスポーツに属するハンドリング重視のタイヤだが、同時にウェット性能や耐摩耗性にも配慮。幅広いシーンでライディングを楽しむために開発されたオールラウンドな製品になっている。

走り出してすぐに体感できるのが転がり抵抗の少なさだ。とりわけフロントは軽やかで、曲がりたい方向へ目線を向ければ素直に旋回を開始。そこに小難しい操作や特別なスキルはまったく必要ない。

バンク角が深まってその印象は変わらず、思い描いたラインをトレースすることが出来る。バイクに身を委ねたまま、リズムカルに車体を切り返せるイージーなハンドリングを披露して

くれるため、その先がどうなっているのか分からない初めてのワインディングでは特に安心感が高いはずだ。

一方、リヤはがっしりとした剛性を伝え、パワーをガンガン掛けることを許容するスポーティさが特徴だ。フロントで旋回力を、リヤで立ち上がり加速を稼ぐという役割が明確でスイスイと流れるようにコーナーをクリアできるナチュラリティが光る。

対するIRCのRX-02は、もう少しライダーへの依存度が高い。全体的にややアンダーステアな味つけが施されており、フロントへしっかりと荷重すること意識すると高い旋回力を発揮。そのポテンシャルを引き出すには、ワンランク上のスキルがあった方が楽しみの幅が広がるだろう。

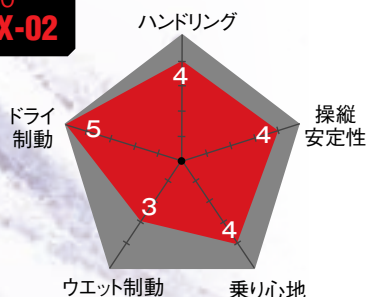
グリップ力は同等にして充分ながら、ステージもスキルも選はないという懐の深さならTS689だ。



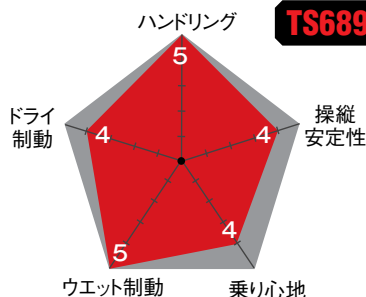
ニュートラルの意味を
教えてくれる

採点結果

**IRC
RX-02**



**TIMSUN
TS689**



徹底比較テスト

TESTER 伊丹孝裕

→ 2輪誌の編集長を務めた後、独立。レーシングライダーとしても活動し、マン島TTやバイクスピーク、鈴鹿8耐等に参戦してきた。

安定の国内ブランドか、勢いに乗る新興ブランドか？
タイヤ選びに悩めるライダーのため
あらゆる条件下&あらゆるサイズで徹底テストを敢行！
そのパフォーマンスに迫った。

●写真：柴田直行 ●取材協力：カスタムジャパン/サイクルロードイーター
桶川スポーツランド/デジスパイス

CYGNUS X

PCX

YZF-R3

14inch

12inch

↑小径ホイールと軽量ボディがもたらすクイックなハンドリングが魅力。ストリートで優れた機動力を発揮する。

17inch

↑MotoGPマシンのテイストが盛り込まれた小さなスーパースポーツ。本格的な足まわりが高い運動性を生み出す。

↑大径ホイールと高剛性フレーム、長いストロークのサスペンションを備え、安定性を重視したスクーター。

コースに水を撒き、ウェット路面を再現



↑ストリートで多用されるテスト車の特性上、雨中での乗車頻度も高いはず。そのためコースに散水し、ウェット路面でのグリップ力も確認した。

ドライ60km/h、ウェット40km/hから短制动



↑公正を期するため、スピードは実測値で統一。計測はGPSロガーの「デジスパイスⅡ」で、スマホアプリの「デジスパイス・スピード」で数値を表示。



ハンドリングやグリップの良し悪しはもちろん、安全性にも直接影響するタイヤは、失敗したくないパーツ選びの筆頭だ。それゆえ、よほどの不満がなければ純正採用されているタイヤをそのまま新品に交換……というユーザーが多数派でもある。

まして、あまり馴染みのない製品には手が出せないものだが、このところ急激にシェアを拡大しているブランドがある。それが「ティムソン」だ。

ティムソンは、06年に中国で創業を開始した新興ブランドながら、すでに販売実績は1億本を超え、40ヶ国以上に流通。注目すべきは、「中国製品」「コスト重視（つまり、性能は二の次）」という従来のイメージではなく、その「品質」が評価されているという点だ。

果たして、実際のパフォーマンスは

ティムソンとは？



↑ティムソンは、徹底して高品質を追求するとともに幅広いカテゴリーに対応するラインナップを揃えるタイヤブランド。天候を問わない高いグリップ性能はもちろんだが、耐久性における自社テストの結果では日本の有名メーカー同等以上のロングライフを実現している。

どれほどのものなのか？ それを検証すべく、コミューターからスポーツモデルまで3種のモデルと3サイズのタイヤを用意。それぞれを国内外で確固たる評価を獲得し、純正採用の実績でも申し分ない「IRC」の製品と付度なしで比較してみることにした。

その詳細が次の通りである。

真夏の耐久3本勝負!?

ツーリング●通勤 **TIRE** 徹底比較テスト



CYGNUS X

→↑従来品のSS-560よりもセンター部分のグループが18%向上。排水性はもちろんのこと、操作性や安定性も大きく向上している。

**IRC
MOBICITY
SCT-001**
F 110/70-12
R 120/70-12



TIMSUN
TS660
F 110/70-12
R 120/70-12

←↑スクーター専用に開発され、優れた耐摩耗性を持つストリートタイヤ。従来品 (TS600) よりも接地面積が増し、グリップ力も高い。



乗り心地

↑乗り心地はほぼ同等だ。あえて差を探せば、ソフトなぶん、車体が揺られるTS660に対し、ややゴツゴツ感がある代わりにフワつきが少ないのがSCT-001だ。とはいえ、気になるほどの違いではない。

制動距離測定結果

	IRC SCT-001	TIMSUN TS660
ドライ制動 (60km/h)	17.1m	15.4m
	15.8m	14.7m
	16.4m	14.6m
ウェット制動 (40km/h)	5.6m	6.6m
	6.1m	5.8m
	5.9m	5.3m

↑接地面積の設計変更がポジティブに機能しているのか、17インチと14インチ同士とは異なり、ドライでもウェットでもティムソンがIRCの結果を上回った。非常にバランスのいいタイヤである。

TS660が特徴的なのは、従来品のTS600と比較した場合の接地面

積の改良だ。トレッド左右の接地幅を

細くした一方、それを前後方向に拡大。これによってブレーキング時の安定感と車体をバンクさせる時の軽快感を両立しているのである。

それがもたらすハンドリングは街中をスイスイと走らせる時に極めて有効で、小回りが効き、手足のように扱える機動性はシグナスXのコンセプトに則ったもの。それでいて、もしもの急制動にも応えてくれるなど(左表の制動距離を参照)、極めてバランスよく仕上げられている。

その点、SCT-001を装着した時の挙動は落ち着きのあるものだ。P CXで見たスタビリティの高さはシグナスXでも基本的に変わらず、交通量の多い街中よりも緩やかなコーナーが多い郊外でそのハンドリングが活きるタイプである。



**街を軽やかに駆ける
通勤快足タイヤ**

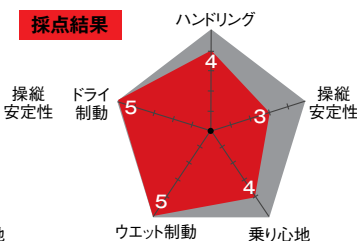
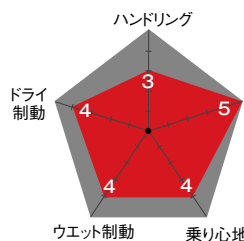
まとめ

**コストではなく
品質で選べるタイヤ**

4輪の世界では中国、台湾、韓国といった国々の新興タイヤメーカーの躍進が目覚ましく、それらはいずれもコストではなく、性能で選ばれている。そうした流れが2輪界にもおよびるのは時間の問題だったが、その筆頭が今回テストを行ったティムソンになるはずだ。

ハンドリングもグリップ力も中国製品割には「……」という前置きがまったく必要なく、日本のメジャーブランドと同じ土俵で勝負できるレベルにあるのは、計測結果からも明らか。というよりも、むしろ勝っている項目も多くあることが分かり、先入観は早々に捨てることができた。

コストパフォーマンスではなく、「品質」で選べるべきタイヤ。それがティムソンである。



スクーターも全項目チェック



PCX



→↑トータルバランスをコンセプトに掲げ、同社従来品のSS-560比でドライグリップが15%、ウェットグリップは10%向上している。

**IRC
MOBICITY
SCT-001**
F 90/90-14
R 100/90-14



←↑シティ通勤用ハイエンドタイヤのひとつ。ウェットグリップを高めるために施されたエッジ部分のシボ加工が特徴的だ。

**TIMSUN
TS692**
F 90/90-14
R 100/90-14



乗り心地

↑凹凸をしなやかに伝えてくれるため、乗り心地の良さを体感しやすいのはTS692だ。対するSCT-001にはややゴツゴツ感があるが、そのぶん挙動が早く収束し、特に高速コーナーでの安定性に優れる。

制動距離測定結果

	IRC SCT-001	TIMSUN TS692
ドライ制動 (60km/h)	16.4m	16.9m
	15.4m	15.8m
	16.4m	16.8m
ウェット制動 (40km/h)	5.5m	6.7m
	6.6m	5.7m
	6.1m	5.6m

↑前項と同様、ドライではIRCが、ウェットではティムソンが優位という結果になった。TS692はトレッドのサイド部分にも排水性を高めるための加工が施され、心理的な安心感も高い。

今回の試乗コースである桶川スポーツランドには舗装の荒れた部分がいくつかあり、ギャップも点在している。そこを不用意に通過すると、サスペンションが瞬間的にボトムすることがあるものの、ティムソンのTS692は常に優れた路面追従性をキープ。衝撃をタイヤそのものがしなやかに減衰力

を發揮し、不快な突き上げを軽減していることが分かる。例えば、一般道の工事区間ではアスファルトの凹凸がしばらく続いたり、マンホール部分だけ飛び出しているようなことも少なくないが、そうした場面でも乗り心地の良さを確保。スムーズに通過することが出来るはずだ。IRCのSCT-001は、減衰がより素早い印象で、同じギャップでもTS692が「フワッ」といなすとすれば、こちらは「ビシッ」と受け止める

と表現するのがふさわしい。そのため、ペースを上げた時の安定性に重きを置かずならこちらに分がある。【柔】のTS692に対し、【剛】のSCT-001というキャラクターの違いがそこにあり、ユーザーの好みや使い方を照らし合えば、迷うことなく選択できるのではないだろうか。

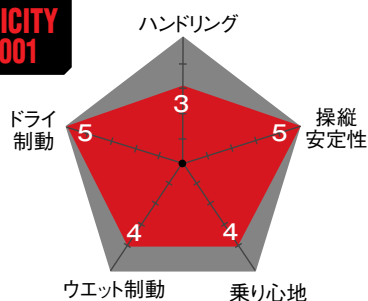


路面から伝わる衝撃を
しなやかに吸収

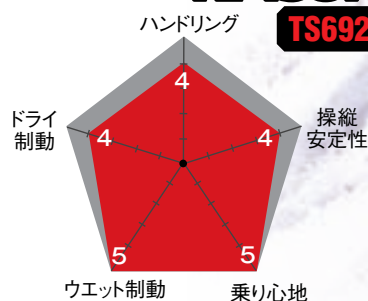
採点結果



**IRC
MOBICITY
SCT-001**



**TIMSUN
TS692**

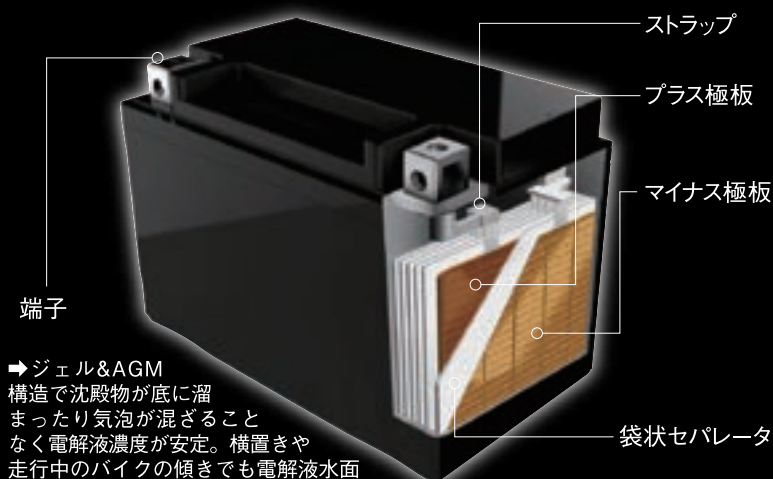


Pro Select Battery

最新のナノ・テクノロジーを駆使した ジェル状バッテリー液を採用。

ナノジェルテクノロジーと AGM構造で ロングライフを実現

左がプロセレクトバッテリー プレミアムシリーズ ナノ・ジェルの内部図解。セルと呼ばれる複数の小部屋には、それぞれに鉛でできた陽極版と陰極版と、それを満たすように希硫酸の電解液が入っている。両極版と電解液が化学反応を起こすことで電気が発生するわけだが、このあたりの基本構造はいわゆる鉛バッテリーと同じだ。ナノ・ジェルバッテリーが違うのは、半固形のジェル状にした電解液をガラス繊維状のスポンジマット（AGM=Absorbent Glass Mat）に染み込ませたナノジェルテクノロジーを加えたこと。極版との密着性がよくイオン伝導度に優れるため、高い起電効率を可能としたのだ。また極めて放電しにくい性質から、長期保管性能をさらに向上。AGM構造なので横置きでも液漏れの心配がなく、耐振動性能、低温時性能にも優れているのだ。



→ジェル&AGM構造で沈殿物が底に溜まったり気泡が混ざることなく電解液濃度が安定。横置きや走行中のバイクの傾きでも電解液水面がずれて電極が空露出することがない。

ジェル&AGM構造で 横置きにも対応



←AGM構造なので横置きでも液漏れの心配がない。横置きや斜め置きが標準仕様となっている最新バイクには、このタイプをぜひ使いたい。

スクーターから大型車まで 豊富なラインナップ



↑原付スクーターから大排気量のスポーツモデルまで多くの車種に対応する豊富なサイズがラインナップされている。ひとつ上の高性能バッテリーを体験可能だ。

すぐに使える 液入充電済み



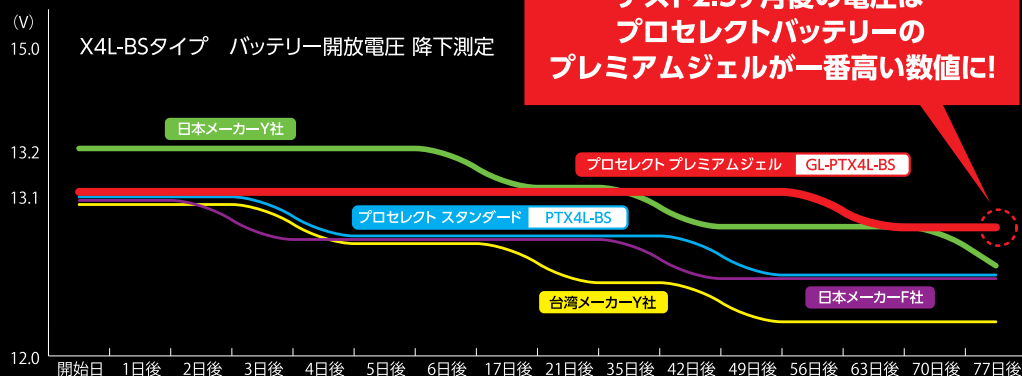
↑ナノ・ジェルバッテリーは全品が液入充電済みの状態で出荷。パッケージから取り出してすぐに使うことができる。ターミナルボルトも同梱。

長期保管に強いのもAGMならではの



↑年間走行距離少めや冬場に乘れないライダーにこそナノ・ジェルはオススメ。定期的な補充充電も行えば、さらに完璧だ。

他社バッテリーとの放電性能比較



公式Facebookはこちらから

Pro Select
Battery



SHAD



TIMSUN
Excel Beyond

